

第3章－2 Aブロックの研究のまとめ

Aブロック

大阪市立北中島小学校（公立） ・ 大阪市立三国保育所（公立）
学校法人圓光寺学園認定こども園ひじり幼稚園・ひじり保育園（私立）
社会福祉法人大五京ポラリスこども園（私立）

【ブロックテーマ】

「子どもも大人もつながる保幼小連携の在り方を探る～同じ地域で過ごす仲間として～」

【指導助言】 関西国際大学 棕田 善之 准教授

1 研究の方法

(1) ブロックの現状と課題

これまでの保幼小連携としては、学校法人圓光寺学園認定こども園ひじり幼稚園ひじり保育園5歳児と北中島小学校1年生児童との交流会、社会福祉法人大五京ポラリスこども園5歳児と北中島小学校1年生児童との交流会を、入学前の2月に行ってきた。また、北中島小学校には多くの就学前保育教育機関から入学してくる児童がいる（令和7年度入学児童40名に対し、17園所から入学）ことから、入学後の小学校生活を安心して過ごせるよう、これらの児童の現状や配慮事項についての引継ぎを各就学前保育教育機関と行ってきた。就学前保育教育機関同士の交流としては、大阪市立三国保育所が他の公立保育所との交流を行い、保育実践の交流や児童の交流を進めてきている。同じ地域で過ごしている就学前保育教育機関と小学校ではあるが、取組としてはここまでであり、あらためて交流という視点で振り返る中で、次のような課題が浮き彫りとなった。

- ・ 近隣の就学前保育教育機関同士での交流がない。
- ・ 教職員同士の交流（公立と私立、就学前保育教育機関と小学校）が少ない。
- ・ 就学前保育教育機関では、子ども主体の保育をしているが、小学校でどう引き継がれているか分からない。

また、就学前保育教育機関の児童は、小学校入学を前に不安を抱いていることが多い。保護者も同様である。それらの不安を解消し、小学校生活をよりスムーズに安心して過ごすためにはどうしていくべきか…。その視点に立った取組の構築・充実が必要であるとの課題が打ち出された。

(2) テーマ設定の理由

見えてきた課題の解決に向け、それぞれの校園所が何を大事にし、どのような取組を行っているのか知り合う必要がある。近隣に居を構える校園所、その児童も教職員もつながっていく必要がある。そうすることが児童や保護者の安心と、地域全体での「はぐくみのわ（輪・和・笑）」が広がると考え、テーマを次のように設定した。

「子どもも大人もつながる保幼小連携の在り方を探る

～同じ地域で過ごす仲間として～」

このテーマに沿って取組を構築するとともに、保育・教育内容のつながりについて模索することとした。

(3) 取組内容

保育・教育内容の理解を深める取組

- ・ 小学校の授業見学・意見交流
- ・ 就学前保育教育機関の保育見学・意見交流
- ・ 就学前保育教育機関同士の保育見学・意見交流

教職員間の交流合同研修会の模索

子どもの様子の交流（就学前保育教育機関と小学校で）

子ども同士の交流

- ・ 5歳児の小学校見学（授業の様子・休み時間の様子 等）
- ・ 5歳児の小学校行事の見学（作品展・音楽発表会 等）
- ・ 5歳児と小学校1年生との交流会
- ・ 5歳児同士の交流（園所交流）
- ・ 小学生の就学前保育教育機関への交流体験
- ・ 就学前保育教育機関の小学校芝生広場や中庭での遊び

(4) 取組計画

R6年度	
4月	
5月	5/ 7 事業説明・顔合わせ・ブロック会
6月	6/ 7 連携会議（取組内容検討）
7月	7/12 連携会議（取組内容検討）
8月	
9月	
10月	10/16 連携会議（取組内容検討） 10/31 連絡調整
11月	11/12 連携会議（取組内容検討）・小学校への授業見学 11/28 交流保育（ひじり・ポラリス）
12月	12/ 2 連携会議（取組内容検討） 12/ 4 交流保育（三国・ひじり） 12/12 小学校の作品展見学（三国） 12/16 小学校の作品展見学（ポラリス・ひじり）

1 月	1/21 5 歳児（ポラリス）と小学校 6 年生との交流 1/23 連携会議（取組内容検討）・交流保育（ポラリス・三国）・教職員合同研修会 1/24 5 歳児（ひじり）と小学校 6 年生との交流 1/27 5 歳児（三国）と小学校 6 年生との交流
2 月	2/ 3 5 歳児（ひじり）と小学校 1 年生との交流 2/ 5 5 歳児（ポラリス・三国）と小学校 1 年生との交流 2/21 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討） 2/25 小学校 5 年生の各園所読み聞かせ訪問
3 月	3/27 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）

R7 年度	
4 月	4/28 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
5 月	5/20 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
6 月	6/12 小学校の施設見学（学校全体・芝生広場・特別教室） 6/24 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
7 月	7/24 小学校教員の保育見学 7/30 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
8 月	8/28 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
9 月	9/10 5 歳児と 6 年生との交流 9/26 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
10 月	10/14 交流保育 10/22 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討） 10/28 小学校の授業見学（授業のみ 理科・家庭科・音楽等特別教室の授業）
11 月	11/ 4・17 交流保育 11/12 小学校音楽発表会見学 11/13 給食試食会（各園所の先生が小学校給食試食会に参加） 11/19 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討）
12 月	12/12・16 小学校の作品展見学 12/25 連携会議（報告会リハーサル）
1 月	1/21 連携会議（学びの連続性の検討・取組内容検討） 1/28 全市への報告会（北中島小学校で実施）
2 月	2/17・19 5 歳児と小学校 1 年生との交流 2/24 5 歳児と小学校 5 年生との交流 2/24 連携会議（取組内容検討）
3 月	

2 主な取組

【1年目の取組】

(1) 小学校の授業見学

- ◆ ねらい ○ 5歳児が、身近な小学生の授業風景や小学校内を見学することで、小学校生活へのあこがれや希望をえがけるようにする。
- ◆ 活動内容 ○ 1年生の教室に入り授業を見学する。
○ 小学校内を散策する。



3園所が、時間をずらして1園所ずつ見学することとした。小学校1年生の教室に入り授業風景を実際に見たり、1年生不在時に1年生が使っている椅子に座ったりした。その後、他学年の授業風景を廊下から見たり理科室に入ったりしながら、校内を見学した。待ち時間には、校内の芝生広場で遊び、小学校の広さを体感した。来年度入学する小学校への不安を解消したり、楽しみな気持ちを抱いたりする一因となった。

(2) 交流保育

- ◆ ねらい ○ 近隣の就学前施設で過ごしている同世代の友達の存在を知る。
○ 初めて出会う友達と一緒に遊びを楽しみ、お互いに関心や親しみをもつきっかけづくりをする。
- ◆ 活動内容 ○ 就学する小学校ごとに分かれ自己紹介（小学校ごとに名札の色を分け、分かりやすくする）
○ 所庭でふれあい遊び・園所混合ドッジボール



就学前保育教育機関3園所で交流をもつことになったが、合計118人が一カ所の園に集まるのは難しく、2園所ずつ交流を行うことにした。

自己紹介の後のふれあい遊びでは、名前や就学先を確認し合う姿があった。その後、園所混合ドッジボールで盛りあがった。

(3) 小学校の作品展見学

- ◆ ねらい ○ 5歳児の子どもが、小学生の図画工作作品を鑑賞し、豊かな感性を育む。
○ 5歳児の子どもが、小学生の図画工作作品の鑑賞を通して小学校の学習（主に図画工作）に興味関心を抱き意欲を高めるようにするとともに、小学校生活へのあこがれや希望をえがけるようにする。
- ◆ 活動内容 ○ 小学生の作品展を見学し、感想を発表する。



各園所の行事の都合から、二日に分けて実施した。5歳児のみでの見学だったため、ゆとりをもって見学することができた。

1～6年生の作品を見たことで、園所に帰ってからの制作のイメージを膨らませている子どもが多かった。「小学校の図画工作の学習が楽しみになりましたか」の質問に対し、最も肯定的な回答（とても楽しみになった）をした子どもは、95.5%であった。

(4) 5歳児と小学校6年生との交流

- ◆ ねらい
 - 5歳児の子どもが、小学校6年生と触れ合い交流することにより、小学校生活のあこがれや希望をえがけるようにする。
 - 小学校6年生が5歳児と触れ合い交流することにより地域の先輩としての自覚や思いやりの心を持ち、交流会を企画・運営することにより主体性や自主性を育む。
- ◆ 活動内容
 - 小学生が司会・進行をしてゲームをする。
 - じゃんけんゲーム・ボール回し・ドッジボールなど自由に遊ぶ。



各園所の行事の都合から、小学校6年生がクラス毎に別々の日に3園所に行き、各園所での交流をすることとした。

5歳児の子どもは、名前を聞いたり手をつないだりして生き生きとした姿が多く見られた。小学校6年生はどう接したらよいか戸惑いながらも、優しく自然に笑顔になり楽しんでいる姿があった。

(5) 教職員合同研修会

今までも、保幼こ小の取組として、子どもたちの交流はあったものの、保幼こ小の教職員が一堂に会し、一緒に研修を受けるということは初めての取組だった。小学校の先生たちの取組や考え方を知るよい機会となり、保幼この園所の取組に関しても小学校の先生に知ってもらいよい機会になった。双方がお互いを理解するには時間が少なかったが、研修を積み重ねていくことで、よりお互いの取組を知ることができると思う。子どもたちがどのような保育環境で育ったのか、子どもたちが学校生活を通してどのような教育を受けているのかを、今後も理解していくことが大切である。今回だけで終わるのではなく、今後も継続していきたい取組である。



【1年目の成果と次年度への課題】

今年度、様々な取組を行うことで、多くの成果を得ることができた。一方で、取組を進める中で、今後検討していくべき課題も見えてきた。この課題の解決がさらなる連携の深まりとなる。

< 1 年目の成果 >

- ・ これまでになかった取組を構築することができた。
- ・ 取組を通して、各園所の 5 歳児に、小学校入学に対する不安を解消することができた。
- ・ 取組を通して、小学生に自覚と責任、優しさや思いやりの心を育むことができた。
- ・ 取組を通して、各園所と小学校との連携がこれまで以上に深くなった。

< 次年度への課題 >

- ・ さらなる取組を構築し、5 歳児がさらに小学校への安心感、希望や夢を抱くことができるようにしていく必要がある。
- ・ 取組を各学期にバランスよく配置し、年間を通して連携を図る必要がある。
- ・ 各園所と小学校との連携は深まったが、管理職や主任までにとどまっている感は否めない。勤務形態に差はあるものの、次年度は、教職員の関係・連携が少しでも深まるようにしたい。
- ・ 保育・教育内容のつながりを探り、子どもたちの成長がより豊かなものとなるようにしていく必要がある。

【2 年目の取組】

(1) 小学校の施設見学

- ◆ ねらい ○ 5 歳児の子どもが、小学生の授業風景や校内を見学することで、小学校生活への夢や希望をえがけるようにする。
- ◆ 活動内容 ○ 1 年生だけでなくいろいろな学年の授業を見学する。
○ 音楽室や理科室など、特別授業を見学する。

1 年目と同じく、3 園所が時間をずらし 1 園所ずつ見学を行った。1 年生の教室だけではなく、様々な学年の教室や特別教室を見学した。音楽室では中に入り、様々な楽器の名称を教えてもらったことで、子どもたちの興味や関心が喚起されていた。理科室でも中に入り、6 年生の授業を見学した。質問をしたり教えてもらったりと、お兄さんやお姉さんとの交流もあり楽しんでいた。最後は中庭にある遊具で遊び、池にいるメダカのエサやりを楽しんだ。校長先生との交流もあり、安心感や親しみをもてる時間となった。



(2) 小学校教員の保育見学

- ◆ ねらい ○ 小学校教員が就学前保育教育機関の取組を知り、理解を深める。
○ 小学校教員と就学前保育教育機関の職員が意見交流を行うことで、実際に学びの連続性を感じる。
○ 就学前保育教育機関と小学校の連携を深める。
- ◆ 活動内容 ○ 小学校教員が 3 つの就学前保育教育機関に分かれ、保育・教育の実際を見学する。
○ 小学校教員と就学前保育教育機関の職員とで意見交流を行う。



小学校教員は、5歳児の活動だけでなく、園所によっては0歳児からの過ごし方を見学した。各歳児での取組や接し方の様子を見ることができ、あらためて就学前保育教育機関の大変さと大切さを感じた。

見学後、小学校教員と就学前保育教育機関職員とで意見交流を行い、子どもの育ちの連続性について共通理解を図った。

(3) 小学校給食試食会に参加

- ◆ ねらい
 - 就学前保育教育機関の職員が、小学校の給食について知る。
 - 5歳児の子どもたちが、小学校の給食について知り、安心感を抱けるようにする。
- ◆ 活動内容
 - 就学前保育教育機関の職員が、小学校の給食試食会に参加する。
 - 小学校栄養士から学校給食についての講話を聞く。
 - 小学校の給食について分かったことを5歳児に伝える。

(メニュー) ウインナーときのこの和風スパゲティ、
きざみのり、焼きツナキャベツ、固形
チーズ、ミニコッペパン、牛乳

(参加者の感想)

- ・ 味付けは薄味だがおいしかった。
- ・ 給食室へ食器を返す際に残飯を見るとい
うことも、子どもたちにとっては良いこ
とだと感じた。
- ・ 栄養士の先生の話から、給食は教育活動のひとつとしてとらえているこ
と、学年によって分量が変えられていることなどを知った。



参加することで、学校や学校給食について知ることができ、保護者と一緒に食べる中で「どこの園の先生ですか?」「上の子が通っていました」など、話す機会をもつことができた。同じ地域で育つ子どもたちを取り巻く大人たちが話せる場としても、有効な取組であると感じた。

(4) 5歳児と5年生との交流

- ◆ ねらい
 - 5歳児の子どもが、小学校5年生児童と触れ合い交流することによって小学生への理想や憧れをえがけるようにする。
 - 5歳児の子どもと触れ合い交流することによって、小学校5年生児童が思いやりの気持ちを育み心遣いを学ぶとともに、地域の先輩としての自覚と責任を抱けるようにする。
- ◆ 活動内容
 - 屋外活動では、ドッジボールやおにごっこ、遊具遊びなど自由に遊ぶ。
 - 室内活動では、小学生が司会・進行をしてゲームをする。



小学校5年生が、3グループに分かれ同じ日に3園所へ行き各園所での交流をすることとした。5歳児の子どもたちは、小学生の話を真剣に聞きゲームを楽しむ姿があった。小学生は、少し戸惑いながらも自分の役割をこなす姿があった。また、5歳児が困っていると、そっとそばに行き話を聞いている姿もあった。

(5) 5歳児と1年生との交流

- ◆ ねらい
 - 5歳児の子どもが、小学校1年生児童と触れ合い交流することによって、小学生への理想やあこがれをえがけるようにする。
 - 5歳児の子どもと触れ合い交流することによって、小学校1年生児童が思いやりの気持ちを育み心遣いを学ぶとともに、地域の先輩としての自覚と責任を抱けるようにする。
- ◆ 活動内容
 - はじめの言葉
 - 「小学校の一日（映像）」鑑賞
 - 1年生の取組
 - 「さんぽ」を一緒に歌う
 - 遊び交流「どうぶつえんゲーム」
 - おわりの言葉



「小学校の一日」の鑑賞では、実際の小学生の様子に興味津々で食い入るように見ていた。また「どうぶつえんゲーム」は、動物の文字数の人数で集まるゲームで、「きりん、3人や！一緒に手をつなごう！！」と1年生がリードしながら遊びを進めていた。1年生から5歳児に「もうすぐ1ねんせい！」と書かれた首飾りのプレゼントがあり、大喜びの子どもたち。小学校への期待が高まった活動となった。

(6) 保育・教育内容のつながりの探求

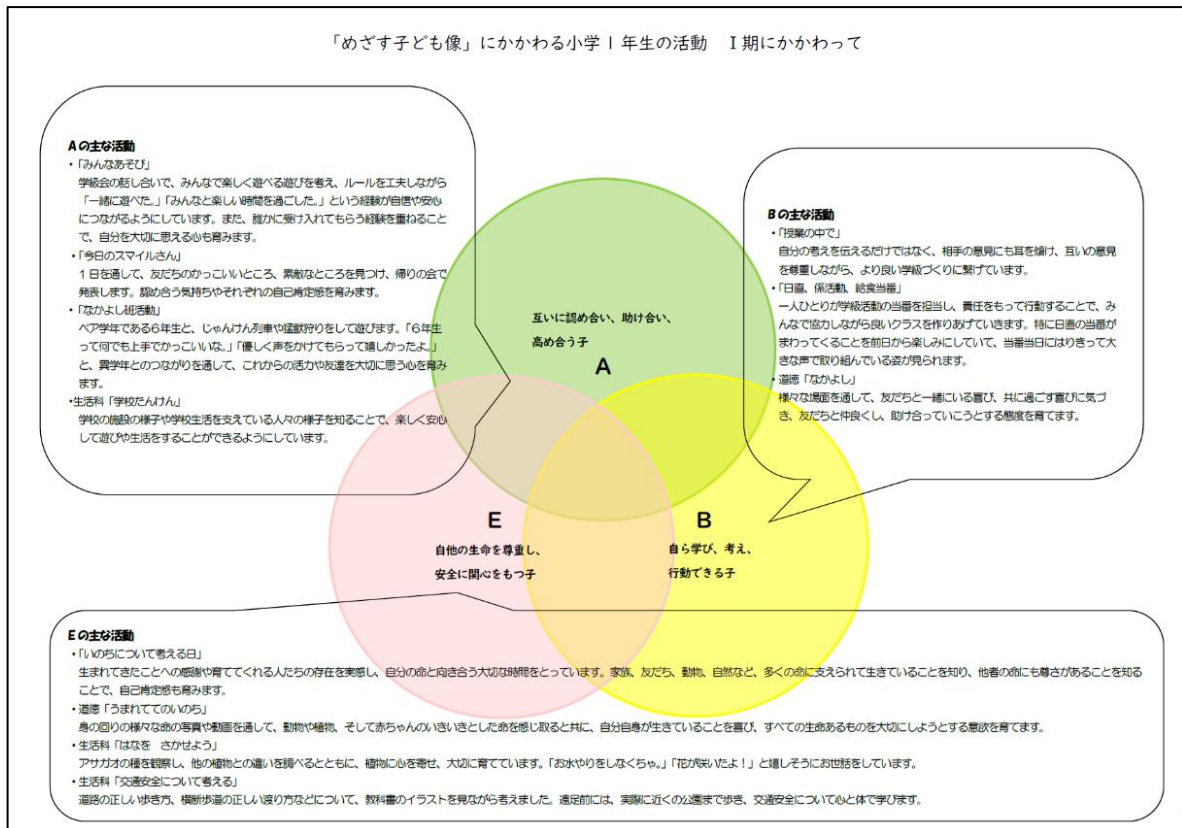
保育・教育内容のつながりを少しでも明確化するために、取組のつながりから考えるのではなく、おおもとの、「めざす子ども像」いわゆる「はぐくみたい子どもの姿」を共通理解することからはじめることとした。そして、3つの就学前保育教育機関の「めざす子ども像」をひとつにまとめたことにより、北中島地域で育つ子どもたちの就学前保育教育における、めざすべき子どもの姿が見えてきた。まとめた「めざす子ども像」が小学校の「めざす子ども像」「はぐくみたい子どもの姿」へとつながっていく。北中島地域の0歳児から12歳児までの「めざす子ども像」の共通理解となった。

まとめた「めざす子ども像」のA「自分も友だちも大切にし、誰にでも優しくし、感性豊かな子」・B「見て、考え、自ら進んで創造性豊かに表現できる子」・C「心身ともにしなやかでたくましく、健康な子」・D「何にでもチャレンジし、最後までやり遂げる、意欲的な子」それぞれに具体的な取組を示した。そして、その取組が「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のどれにあたるのかを記載した。さらには、それらが小学校のどんな取組につながっているかが分かるようにした。

＜「めざす子ども像」にかかわる5歳児の活動 I 期（4・5・6月）＞



＜「めざす子ども像」にかかわる小学校1年生の活動 I 期にかかわって＞



3 研究のまとめ

2年間の研究を終えることになる。

取組の1年目は、5月、6月の連携会議で取組の方向性が見えてきたものの、各校園所の日程調整がなかなかうまくいかず、実際に取り組みが進みだしたのは、10月くらいからであった。それ故、半年間の間にさまざまな取組を行いバタバタした面もあったが、取り組めば取り組むほど、子どもたちの心の変容を感じることができ、充実したものとなった。1年目の終わりには、成果と課題を整理できたため、その課題の解決をめざしながら、さらなる連携の深まりをめざすこととした。

2年目は、さらなる取組を構築するとともに、年間を通して取組をバランスよく配置し進めていくこととした。年度当初に2年目の計画をたてたが、取組を進めていく中で、小学校の音楽専科の教員から、「3年生と5年生の音楽発表会を見学にきてもらってはどうか」という提案があったり、小学校の養護教諭から、「保健の面からの共通理解ができればよいのではないか」といった提案があったりし、取組がさらに充実していくこととなった。

具体的な取組を進めるにあたっては、どの取組においても大切にしてきたことが大きく2つある。一つは、就学前保育教育機関の子どもたちが小学校に来たり小学生と触れ合ったりする中で、小学校生活への不安を解消し、あこがれや希望をえがけるようにすることである。もう一つは、小学生が就学前保育教育機関の子どもたちと触れ合い交流する中で、地域の先輩としての自覚や責任、後輩への思いやりの心を抱くことや、自分たちの頑張りで後輩が喜んでくれることによる自己肯定感・自己有用感の高まりをめざすことであった。この2年間を通して、そのどちらもが達成できたと感じている。それらを裏付けるものとして、取組後のアンケート調査の結果がある。毎回の取組でアンケート調査を行い、子どもたちに活動の振り返りを行った。また、子どもたちの思いを数値化するとともに、子どもたちの今後の希望を確認することで、次の取組に向けての参考としたのである。それらを通して、取組は充実し、子どもたちの満面の笑みをたくさん見ることができた。

また、保育・教育内容のつながりを探求したことも成果の一つとなった。北中島地域で育つ子どもたちの就学前保育教育における「めざす子ども像」の確立、それらを具現化した取組の明示、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」との関連を提示し、それらの延長線上にある小学校の取組を示すことができた。まだまだ改善する余地はあるが、具体の取組で示したつながりは、今後の保幼小連携・接続を進める校園所の参考になりうるものと感じている。

この2年間の成果として最も大きいことは、「子どもも大人もつながる保幼小連携の在り方を探る」という研究テーマを具現化できたことである。同じ地域で過ごす仲間での大きなつながりができ、子どもたちをはぐくむわ（輪・和・笑）ができたといえる。今後の課題は、これらの成果を継続し、さらなるつながりの充実をめざすことである。

次年度からは、これまで蓄積してきた取組の改善と新たな取組の構築を進めながら、取組を継続していきたいと考えている。そのための年間計画は、すでに作成済みである。

<連携・接続する意味、意義について>

連携・接続する意味、意義として、次のことがあげられる。

- ・ 子どもの不安を取り除くことができる
- ・ 保幼小の敷居が低くなる
- ・ 自尊感情や自己肯定感があがる
- ・ 大人が子どもの成長を把握、実感できる

また、円滑な接続を実現させることで、幼児期の学びを生かしてつなげていくことができる。
幼児期の学びを生かせることで、4月入学の時点で安心して自己発揮ができる。

<保育の質が小学校以降にもたらす影響>

協同的な遊びや取り組み行事などに対して、みんなで目標をもって行うことや子どもたちに物事を決めるチャンスを与える事で、社会情動的スキルの育ちに大きく寄与することが明らかになった。



<各園所の取組から得た成果>

知らない人との交流を活発に行うことができた
り、子どもたちの遊びがより豊かになったりした。
また、地域の園所と小学校が共通した視点＝めざすこども像をもつことができた。

<小学校側の取組から得た成果>

子どもにとって授業で身につけた力を交流で活用することができる良い機会になった。また、教師もそれぞれの学年の成長を感じ、子どもたちの自己肯定感を高めることにつながった。園見学の際には見てもらう視点とその後の意見交換が重要である。小学校での不安要素の中で「勉強がしたくない」と思っている子どもは、勉強でつまづくことも多いので、勉強に対するハードルを下げてあげることが必要である。就学前の子どもたち同士の交流も不安要素を取り除くことができるよい機会であった。

<今後に向けて>

今回の取組を行い、今後も連携・接続を継続しながら、さらに発展させていかなければなら



ない。そのためには保幼小連携・接続の理解度をあげる取組を検討していくべき。子どもの声に耳を傾け、子どもの発想を生かし、一人ひとりの興味・関心を追求していく。「できない」ではなく「できること」を探す。「やらなければ」ではなく、まずは「面白そう・やってみよう」から始めてみる。これからは、様々な園所や学校がつながり、工夫を共有し、よりよい姿を一緒に考えていくことが一層大切になる。

5 参加者のアンケートから

- 教職員の異動がある公立小学校、保育所では、経過が薄れ、継続する難しさがある。
- 小学校との交流が、毎年やっているからではなく、その年の子どもの姿に合わせてブラッシュアップしていくことの大切さを感じた。
- 5年生、6年生との交流では双方に大きな成果が出ていたことに驚いた。
- 大人がつながっていくことで継続していく大切さを学んだ。
- 自所だけではなかなか取り組むことが難しいのではと思っていたが、『できない』ではなくまずは『できること』から探ることが大切だと思った。
- どこの小学校区でも、このような取組ができる仕組みがあればいいと思った。

上記以外にも今回の取組について、参考になった、という意見が多かった。私たちの取組の発表を通じて、一つでも多くの公私保幼小が連携する大切さを知り、実行できるきっかけになればと思う。

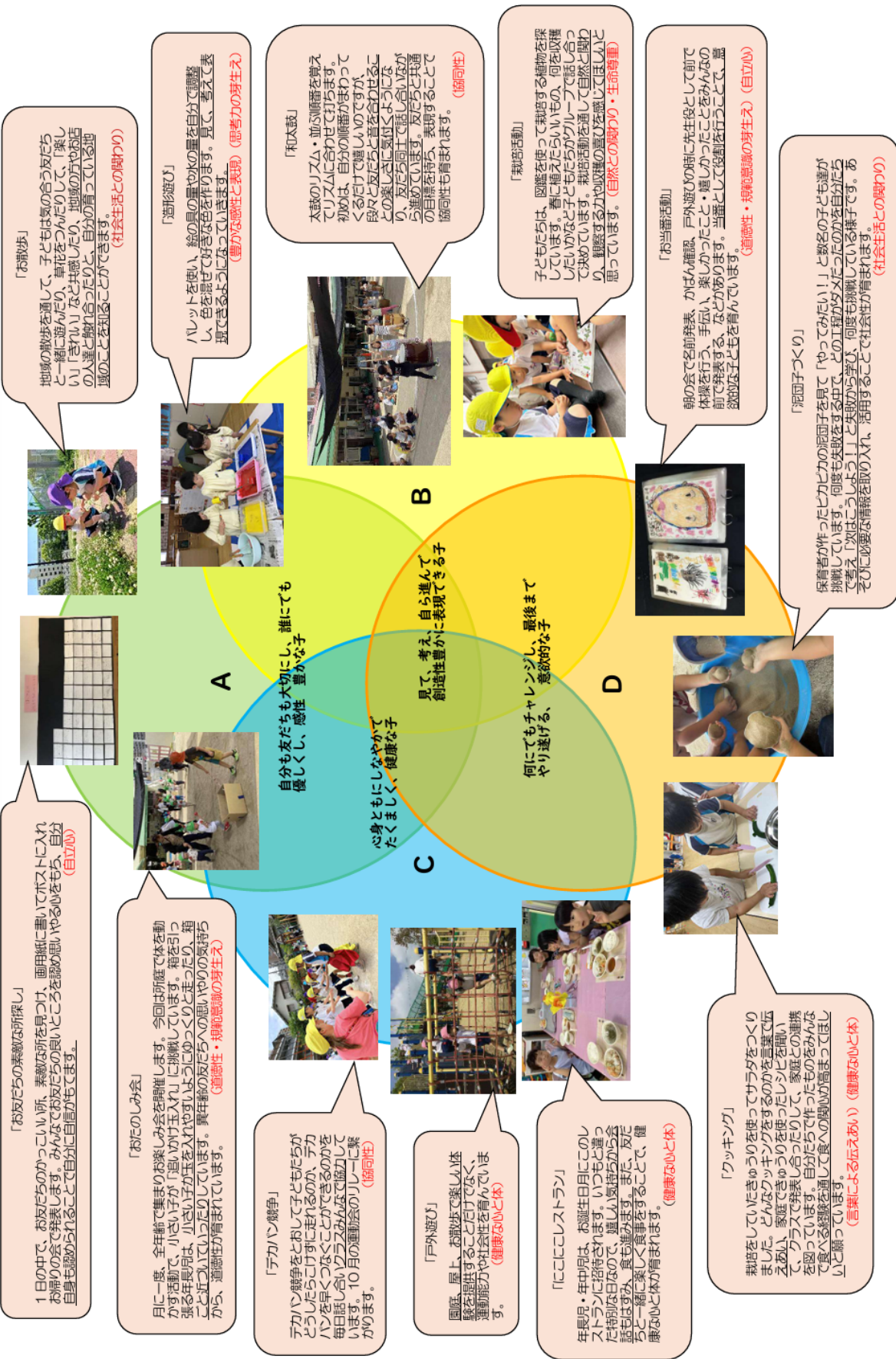
第4期（令和6・7年度）
保幼小連携・接続研究報告会

Aブロック研究テーマ
**「子どもも大人もつながる
保幼小連携の在り方を探る
～同じ地域で過ごす仲間として～」**

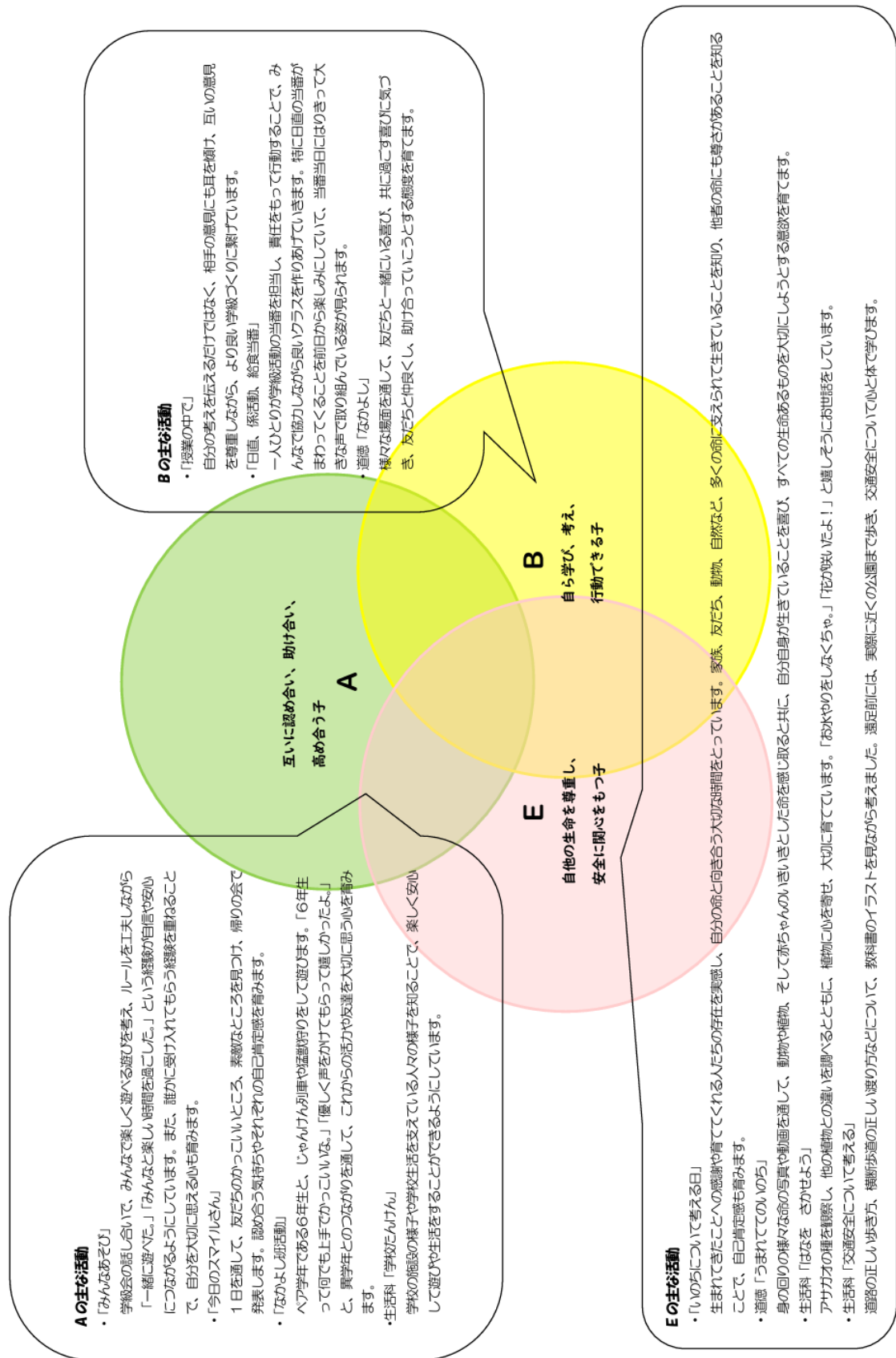


6 資料

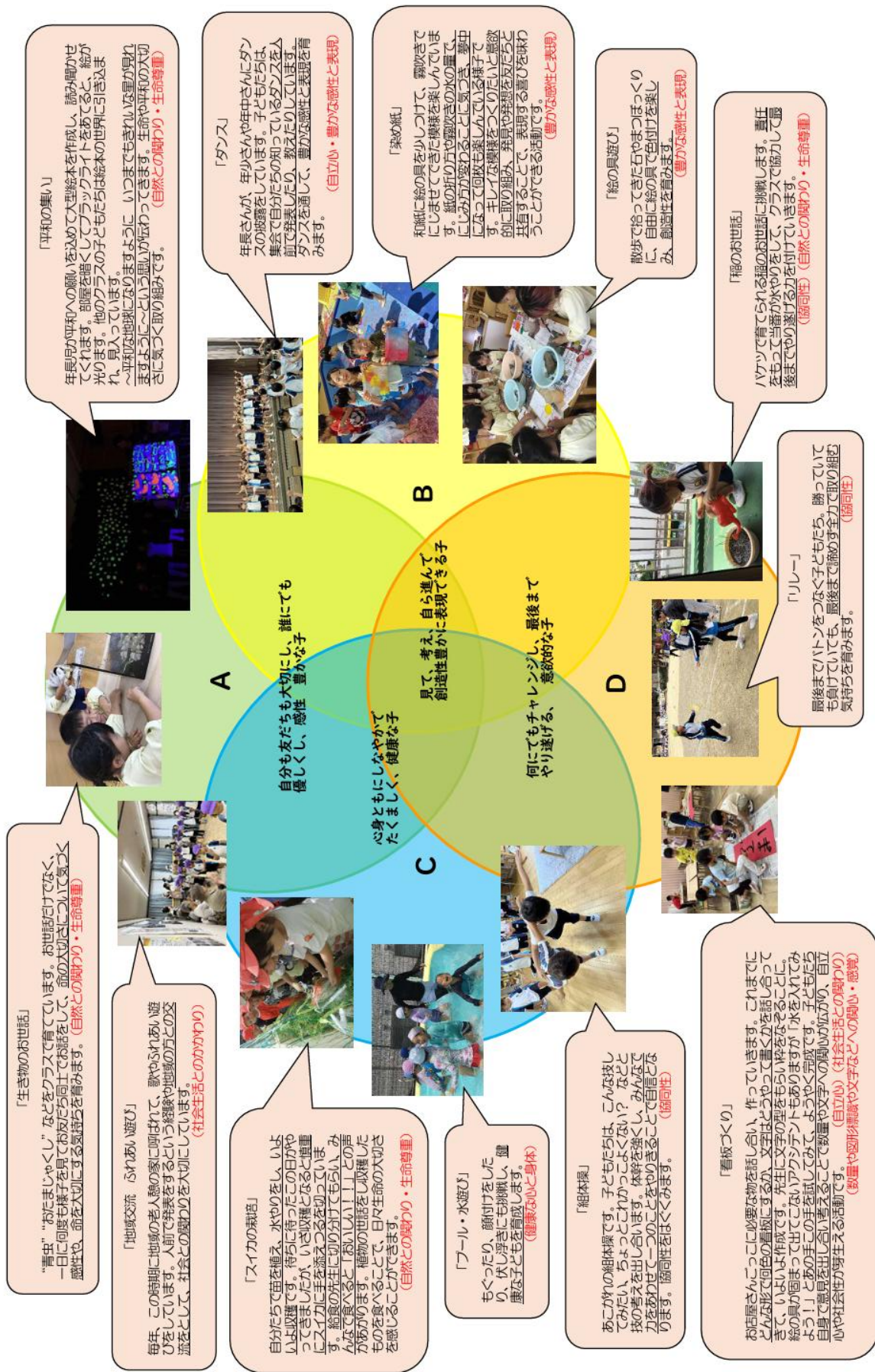
「めざす子ども像」にかかわる5歳児の活動 I 期（4・5・6月）



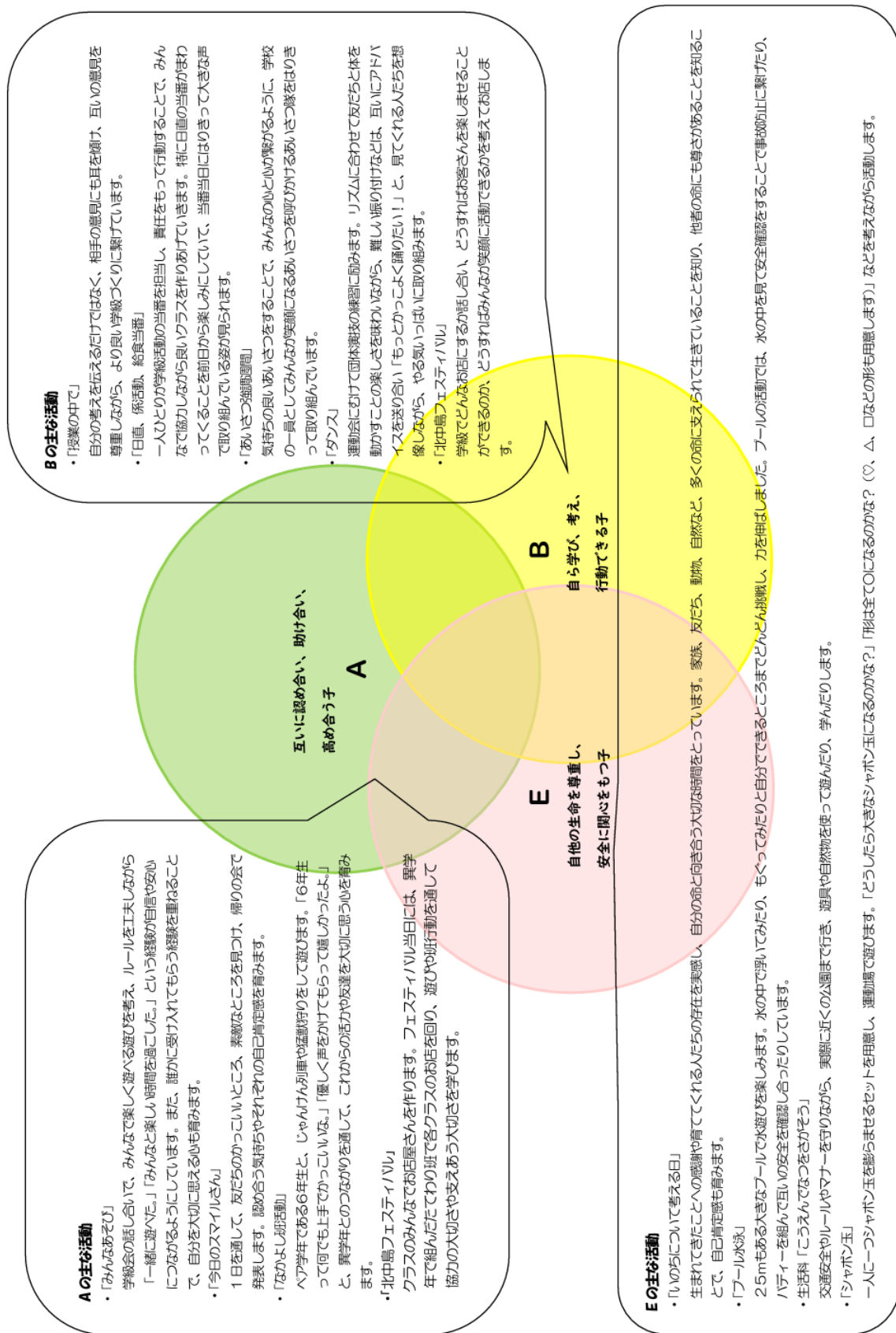
「めざす子ども像」にかかわる小学1年生の活動 Ⅰ期にかかわって



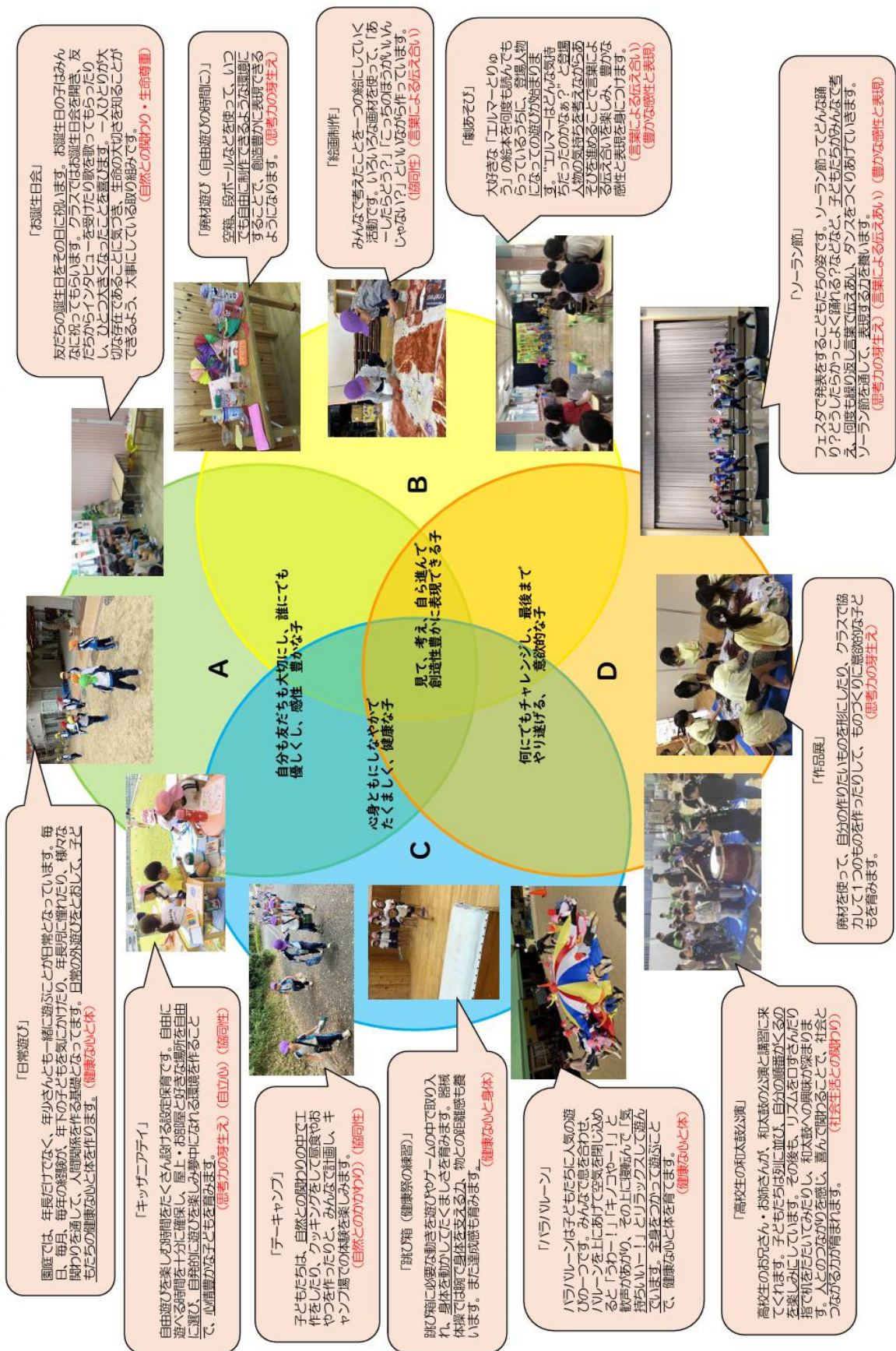
「めざす子ども像」にかかわる5歳児の活動Ⅱ期（7・8・9月）



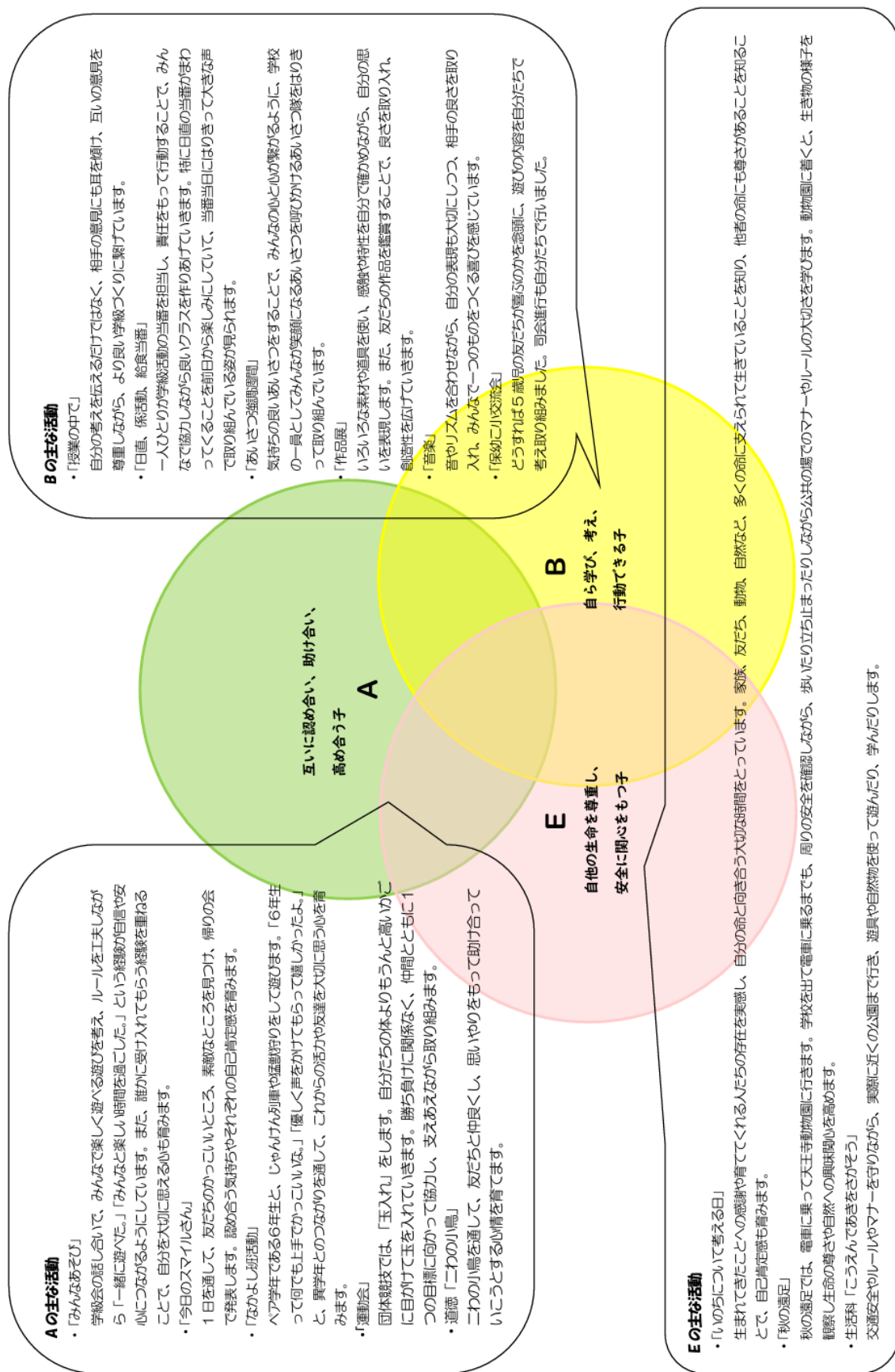
「めざす子ども像」にかかわる小学1年生の活動 Ⅱ期にかかわって



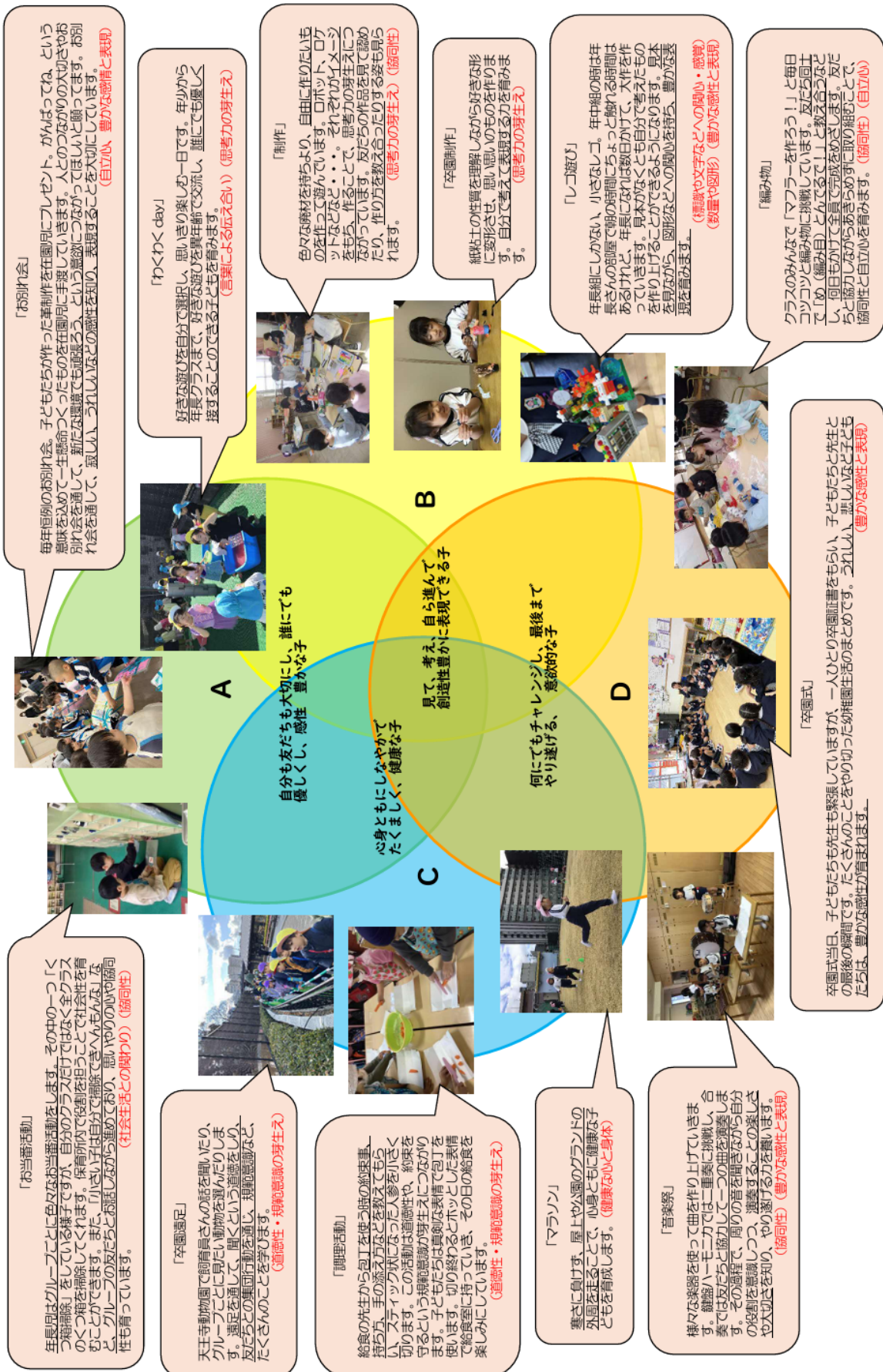
「めざす子ども像」にかかわる5歳児の活動 Ⅲ期（10・11・12月）



「めざす子ども像」にかかわる小学1年生の活動 Ⅲ期にかかわって



「めざす子ども像」にかかわる5歳児の活動 IV期（1・2・3月）



「めざす子ども像」にかかわる小学1年生の活動 IV期にかかわって

